



沿線地域の活性化策について意見を出し合う
高校生＝10日午後、宇和島市三間町戸雁

予土線沿線元気に イベント案を議論

宇和島 愛媛・高知の高校生

愛媛、高知両県にまたがるJR予土線の沿線の高校生が集まり、地域活性化策を考えるシンポジウムが10日、宇和島市三間町戸雁の北宇和高校三間分校であった。両県の5校約20人が沿線を盛り上げようと知恵を絞った。

2023年夏に立ち上げた「予土あす青春18プロジェクト」の一環で初めて開催。これまでは各校がそれぞれの最寄り駅で、色付けしたカポチャの展示やクリスマスツリーの飾り付けなどに取り組んできた。シンポジウムでは、生徒

が春、夏、秋、冬と四つのグループに分かれ、それぞれの季節に応じたイベント案を出し合った。「夏祭りを各駅で開催して中継してみてはどうか」「秋は紅葉がきれいなので遠足をしてみたい」など沿線地域の持ち味を生かした案を出そうと頭をひねっていた。

北宇和高校2年の芝花さん(17)は「他の学校がどんな活動をしているのかわかるいい機会になった。今回出た意見を基に、連携してイベントができたらうれしい」と話していた。

各校による取り組みの発表や、三間地域の酒蔵や酒販売店の見学もあった。

(井上華菜子)